

POW研究会の歩み

2002年

- 3月31日 POW研究会(以下、P研)発足。東京のアジア太平洋資料センター(PARC)にて第1回総会。
- 4月11日～17日 元オーストラリア兵捕虜Neil MacPherson氏父子とOwen Heron氏父子が来日。横浜の英連邦横浜墓地や、長崎県江迎町の潜竜炭鉱収容所(福岡第24分所)跡地を訪問。P研会員が同行。
(注:海外から元捕虜や家族が来日し、収容所跡地などを訪問した際には、P研会員は基本的にボランティアで同行し、案内している。以下、煩雑さを避けるために同様の記述は省略)
- 4月17日 ドキュメンタリー番組「212枚の認識票～検証 英軍捕虜の傷痕と戦後補償～」が関西で放送される。P研が協力。
- 5月13日 会員・西里扶甬子著『生物戦部隊731～アメリカが免罪した日本軍の戦争犯罪～』、草の根出版会より刊行。東京の外国人特派員クラブで出版記念会。
- 7月13日～14日 元アメリカ兵捕虜軍医の子息John Glusman氏が来日。大阪市の津守収容所(大阪第13分所)跡地や神戸市の捕虜病院跡地などを訪問。神戸学生青年センターで交流会。
- 9月4日～10日 元オーストラリア兵捕虜Jack Thorpe氏父子が来日。福岡県穂波町の忠隈炭鉱収容所(福岡第22分所)跡地、戦後の占領期に駐留していた呉市、横浜の英連邦横浜墓地などを訪問
- 10月13日-14日 新潟県上越市にてP研第2回総会。直江津収容所跡に建つ平和記念公園、慰霊碑、資料館などを見学。
- 10月14日 「神戸港フィールドワーク」(by神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会)にP研が協力

2003年

- 3月19日 会員・伊吹由歌子他訳『パターン 遠いみちのりの先に』(原題:“My Hitch in Hell; The Bataan Death March”by Lester Tenney)、梨の木舎より刊行。テニー夫妻を迎え、東京にて出版記念会。
- 5月21日-25日 米国の元捕虜団体ADBC(American Defenders of Bataan and Corregidor)の年次総会にP研会員5人参加。
- 7月 会員・石井信平訳『戦争の記憶～日本人とドイツ人』(原題:“The Wages of Guilt; Memories of War in Germany and Japan”by Ian Buruma)、筑摩学芸文庫より刊行。
- 8月15日 会員・西里扶甬子訳『731部隊の生物兵器とアメリカ～バイオテロの系譜』(原題:“UNIT 731 Japanese Army's Secret of Secret”by Peter Williams & David Wallace)、かもがわ出版より刊行。
- 11月2日-3日 東京にてP研第3回総会。大森収容所、品川捕虜病院、隅田川収容所、文化キャンプ跡訪問。

2004年

- 3月13日 会員・平田典子訳『夏は再びやってくる』(原題“Summer will come again”by John Lane)、神戸学生青年センターより刊行。レイン夫妻を迎え、神戸にて出版記念会。
- 3月15日 元イギリス兵捕虜の孫Grant McLachlan氏が、映画制作のため、ニュージーランドより来日。長野県満島収容所跡地と新潟県鹿瀬収容所跡地を取材。
- 4月6日 国会議員の石毛えい子氏、今野東氏他とP研有志による「捕虜法案に関する学習会」を、衆議院第2議員会館で開催。会員・間部俊明弁護士が講演。
- 4月9日～18日 元オーストラリア兵捕虜Neil MacPherson氏、Jack Boon氏、Jack Simmonds氏とその家族計6人が来日。英連邦横浜墓地、福井県武生収容所跡地、大分県佐賀関収容所跡地、長崎県江迎町の潜竜炭鉱収容所跡地、福岡県大牟田市の三井三池炭鉱収容所跡地などを訪問。
- 5月1日 会代表・内海愛子著『スガモブリズン～戦犯たちの平和運動』、吉川弘文館より刊行。

- 5月3日 P研のホームページを開設。横浜の英連邦戦死者墓地に眠る英連邦兵士1700余人のリストを公表。
- 5月3日 学習会(東京)。平久保正男・諸星達雄・大庭定男(旧日本軍人)「私の戦争体験」を語る。
- 5月4日 会員・小暮聡子による、4月の元オーストラリア兵捕虜の来日とP研の死者リストに関する記事「Past and Present」が「Japan Times」紙に掲載される。
- 6月?日 会員・小暮聡子による、イラク兵捕虜虐待に関する記事「Casualty of War」が「Japan Times」紙に掲載される。
- 7月23日～25日 「空襲・戦災を記録する会」全国大会(於横浜)にP研が協力。
- 7月26日 横浜弁護士会BC級戦犯横浜裁判調査特別委員会編『法廷の星条旗』の出版を記念し、横浜にてシンポジウム。同委員会の間部俊明委員長はP研会員。
- 8月4日～10日? 元オーストラリア兵捕虜David Barrett氏と家族が来日。英連邦横浜墓地、広島、倉敷などを訪問。
- 8月9日 会員・笹本妙子著／会員・田村佳子取材協力『連合軍捕虜の墓碑銘』、草の根出版会より刊行。
- 8月10日～16日 元イギリス兵捕虜George Dunbar氏、Eric Robinson氏、John Phillips氏、Robert Pogson氏とその家族計8人が来日。英連邦横浜墓地や兵庫県生野収容所(大阪第4分所)跡地を訪問。
- 8月15日 会代表・福林徹及び奥住喜重・工藤洋三共著『捕虜収容所補給作戦～B29部隊最後の作戦』刊行(自費出版)。
- 9月12日～20日 元イギリス兵捕虜の孫Grant McLachlan氏が、映画制作のためニュージーランドより再来日。長野県満島収容所跡地、新潟県鹿瀬収容所跡地、横浜弁護士会などを取材。
- 10月? 元イギリス兵捕虜William Rose氏が来日、長野県満島収容所(東京第12分所)跡地、新潟県鹿瀬収容所(東京第16分所)跡地などを訪問。
- 10月30日-31日 京都府宮津市にてP研第4回総会。大江山鉦山の捕虜収容所(大阪第3分所)、中国人収容所、朝鮮人収容所などの跡地訪問。
- 11月2日 会員・小暮聡子による、満島収容所に関する記事「Justice reaches dead-end」が「Japan Times」紙に掲載される。
- 12月28日 P研HPスタート。日本国内で死亡した連合軍捕虜全員のリストを公開。

2005年

- 1月-2月 P研作成の死亡者リストに関する記事が毎日新聞、Japan Times、河北新報、沖縄新報、オーストラリアのCourier Mail、英国のThe Daily Telegraphなどに掲載。大きな反響があり、世界中から100通以上のメールがP研に寄せられる。
- 3月 会員・Gregory Hadleyが、James Mackay著『Betrayal in High Places』掲載の“佐渡相川の捕虜虐殺事件”の捏造を証明した論文を完成。「産経新聞」、「四国新聞」、「新潟日報」などで紹介。
- 3月 会員・鈴木正徳訳『将軍はなぜ殺されたか～豪州戦犯裁判・西村琢磨中将の悲劇』(原題:“Snaring the other tiger”by Ian Ward)、原書房より刊行。
- 3月19日 学習会。会員・鈴木正徳が訳書『将軍はなぜ殺されたか』について、イギリス人作家スタンリー・ガイ氏が香焼収容所(福岡第2分所)にいた英捕虜について講演。
- 3月22日 P研「豪日交流基金賞」を受賞。オーストラリア大使館にて授賞式。

- 3月26日 フィリピン俘虜収容所の本所長として捕虜虐待の責任を問われ、戦犯として処刑された洪思翊(フォンサイック)中将のひ孫でTVディレクターの白淵雅(ペクイオナ)氏が来日、当時の部下や元朝鮮人戦犯、日本人研究者らを取材。P研が協力。
- 3月27日? 元イギリス兵捕虜David Russell氏と家族が来日、英連邦横浜墓地や兵庫県生野収容所(大阪第4分所)跡地を訪問。
- 3月28日 元アメリカ兵捕虜Oscar Leonard氏と家族が来日、川崎の東京第2分所跡地、旧日本鋼管扇町工場、英連邦横浜墓地などを訪問。
- 4月4日~10日 元オーストラリア兵捕虜の子息Pat Flanagan氏夫妻が来日、山口県小野田市の大浜収容所(広島第9分所)跡地や英連邦横浜墓地などを訪問。
- 4月10日 元イギリス兵捕虜の遺族Rosemary Hopkins氏夫妻が来日、英連邦横浜墓地を訪問。
- 4月 会代表・内海愛子著『日本軍の捕虜政策』、青木書店より刊行。
- 5月22日 「毎日新聞」、会員・福林徹が米公文書館で発見した「中部憲兵隊事件証拠写真」に関する記事を掲載。
- 6月7日~11日 元イギリス兵捕虜Stanley Topham氏父子が来日、英連邦横浜墓地、長野県天竜村の満島収容所(東京第12分所)跡地などを訪問。英国BBCがこの様子を8月15日に放映。
- 7月9日 8月来日予定のイギリス人高校生との交流を控え、横浜英和女学院にて事前学習会を開催。高校生・大学生・教師ら約60人が参加。
- 8月2日-11日 イギリスより来日のチェイニー高校生33人と日本の高校生との交流や学習会。横浜英和女学院、天龍村、英連邦墓地など。
- 8月12日 会員・Gregory Hadleyの論文抄訳「検証：皇軍の捕虜／ネット社会を独り歩き：捏造された佐渡島虐殺事件」(鈴木正徳訳)が『週刊金曜日』に掲載される。
- 8月17日 元B29搭乗員で元捕虜のMartin L. Zapf氏が来日、島根県益田市、広島県向島収容所(広島第4分所)跡地などを訪問。テレビ朝日が、このドキュメンタリー番組「ヒロシマを最初に見た米兵」を9月13日に放映。
- 9月23日-25日 長野県天龍村にて第5回総会。平岡ダム、満島捕虜収容所(東京第12分所)跡、強制連行中国人・朝鮮人の収容所跡、火葬場跡などを見学。
- 11月上旬 イギリス兵捕虜の遺族Kathleen Booth氏夫妻が来日、山口県小野田市の大浜収容所(広島第9分所)跡地や英連邦横浜墓地などを訪問。
- 11月28日~29日 香港のフェニックスTVが、捕虜輸送船「リすぼん丸」事件の番組制作のため、大阪本所跡地、神戸分所跡地、英連邦横浜墓地などを取材。P研が協力。
- 12月下旬 P研、チェイニー高校生との交流を記録した感想文集を完成。

2006年

- 1月下旬 元アメリカ兵捕虜Everett Reamer氏と、アメリカ兵捕虜の遺族Nancy Brown氏母子が来日、大阪本所跡地、多奈川分所(大阪第4分所)跡地、堺刑務所、英連邦横浜墓地などを訪問。
- 2月5日 学習会。鈴木規夫氏(東京俘虜収容所長・鈴木薫二大佐の息子)、鈴木大佐の巣鴨プリズン日記について講演。
- 3月5日 学習会。会員・菅原完、日本海軍と海軍兵学校について講演。
- 4月2日 学習会。会員・小宮まゆみ、国内の民間人抑留所について報告。

- 5月14日 学習会。会員・三輪祐児、日本の近代化と船について報告。
- 5月30日 英国王室より会員・田村佳子と会員・笹本妙子に名誉大英勲章(MBE)授与。東京の英国大使館にて叙勲式。
- 5月28日～6月8日 元イギリス兵捕虜Frank Planton氏と家族が来日、会員・田村 & 笹本の叙勲式に出席後、英連邦横浜墓地、岩手県釜石市の大橋収容所(仙台第4分所)、釜石収容所(仙台第5分所)跡地、北海道の函館収容所跡地などを訪問。
- 6月7日～11日 会員・三輪祐児と伊吹由歌子の仲介により、上田毅一郎画伯の「鴨緑丸」の絵がフィリピン・スビック湾のHell Ship Museumに寄贈。
- 7月17日 学習会。ドキュメンタリー「偽りの墓標」を視聴後、福田勇氏(カウラ事件生還者)、木川小百合氏(カウラ会3代目会長の娘)が「カウラ日本兵捕虜脱走事件」について講演。
- 8月22日-23日 キャンベラのオーストラリア国立大学にて、同大学太平洋アジア研究所太平洋アジア歴史部門とPOW研究会の共催により「よりよい理解に向けて～日本軍政下のオーストラリア人戦争捕虜の経験を読み直す」と題したセミナーを開催。スピーカーは同大学名誉教授Hank Nelsonなど同国の研究者や元捕虜とP研より4名。2日間の参加者はP研13名を含め、延べ約100名。
セミナー後には、戦争博物館や日本兵捕虜収容所のあった町カウラを訪ね、また各メンバーが各地の元捕虜・抑留者や遺族を訪問。

2007年

- 2月8日 会員・三輪祐児著『海の墓標 戦時下に喪われた日本の商船』、展望社より刊行。
- 4月1日～ 2005年6月に来日した元イギリス兵元捕虜Stanley Topham氏の子息Ian氏とその子どもたちが来日、横浜の英連邦墓地、東京の靖国神社、父のいた満島(長野県天龍村)、広島などを訪問。
- 4月28日 P研、『オーストラリア・セミナー報告集』完成。
- 5月19日 大船収容所跡と龍宝寺(鎌倉市植木)見学会。約20名参加。
- 5月20日 P研、私立栄光学園(鎌倉市)にて「B-29国際研究セミナー～空襲と捕虜飛行士をめぐる」を開催。スピーカーはトーマス・セイラー(米国コンコルディア大学准教授)、グレゴリー・ハドリー(新潟国際情報大学教授)、福林徹(P研)、久野一郎(P研)、長沢のり(P研)、平松晃一(P研)、手塚尚(歴教協・横浜の空襲を記録する会)。参加者は約70名。
- 7月1日～9日 函館収容所で死亡したイギリス兵捕虜(James Robert Butterworth氏)の娘一家が来日、函館や横浜の英連邦墓地を訪問。
- 9月3日～9日 2006オーストラリア・セミナーでスピーチした元オーストラリア兵捕虜David Barrett氏(泰緬鉄道)、Bill Flowers氏(チャンギ収容所)とそれぞれの子息が来日、横浜の英連邦墓地、京都の霊山観音などを訪問。東京で4人を囲む会。
- 10月 会員・グレゴリー・ハドリーが新潟のB29墜落事件を記録した著書『Field of Spears: The Last Mission of The Jordan Crew』をPaulownia Pressより刊行。
- 10月10日 会員・グレゴリー・ハドリー、外国特派員クラブにて講演(新潟県横越村に墜落したB29飛行士について)。
- 10月13日 P研、東京の大阪経済法科大学麻布台セミナーハウスにてシンポジウムを開催。会代表・内海愛子「アジア太平洋戦争と日本軍の捕虜政策」、会代表・福林徹「本土空襲の捕虜飛行士について」、会員・笹本妙子「英連邦戦死者墓地から見てきた捕虜～死亡者リストを分析する」。
P研が大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター(武者小路公秀所長)の認定研究会となす。
- 10月20日 学習会(於東京)。滝沢謙三氏(白鷗大学教授)・カレン氏(法政大学教授)夫妻が共著書『GIスプーン4杯分の米粒～捕虜だった祖父が語る戦争』について講演。
- 12月1日 学習会(於東京)。会員手塚尚が「ウェーク島の戦闘」について報告。

12月 会員沖田信悦著『植民地時代の古本屋たち～樺太・朝鮮・台湾・満州・中華民国—空白の庶民史』(寿郎社)刊行。

2008年

- 1月20日 学習会(於東京)。会員・西里扶甬子が「奉天捕虜収容所」について報告。
- 3月15日 学習会(於東京)。会員・神直子が「フィリピンと日本を結ぶビデオメッセージ・プロジェクト」について報告。
- 4月15日 元B29搭乗員Ray “Hap” Halloran氏、外国特派員クラブで講演。
- 4月23日～28日 元イギリス兵捕虜の子息Ian Pritchard氏が来日、広島県尾道市の因島収容所跡などを訪問。
- 4月26日 学習会。会員・手塚尚「“Late Summer of 1941 and My War with Japan”を読む」
- 5月24日 会員・Gregory Hadleyが、研究シンポジウム「戦時における市民の暴力～B29と竹槍」で講演。(東京・日本教育会館、市民文化フォーラム主催)
- 5月31日 米元捕虜Lester Tenney氏(『パターン 遠い道のりの先に』著者)、京都ハートピアにて講演。
- 6月4日 「捕虜・日米の対話」が「米国元日本軍捕虜レスター・テニー博士を囲む会」を東京・星陵会館にて開催。P研有志が参加。
- 6月7日-8日 P研第6回総会を福島市で開催。福島抑留所をめぐる講演会と見学会。講演は、会員・小宮まゆみ「太平洋戦争下の敵国人抑留について」、紺野滋氏(福島民友新聞論説委員)「福島外国人抑留所と原爆投下部隊」、会員・Robert Murphy(福島大学教授)「福島抑留所～沈黙のとばりを上げる」。抑留所が設置された旧ノートルダム修道院、抑留者の墓がある信夫山墓地、模擬原爆の破片が保管される瑞龍寺などを見学。
- 9月27日 学習会。豪歴史研究家 Ian Pfennigwerth氏講演「オーストラリア人捕虜医師ステニングの足跡をたどる」。
- 10月25日 学習会。会員・澤田猛「父島事件の真相～米捕虜の処刑に立ち会ったある海軍少尉の証言」、会員・手塚尚「北京原人の化石紛失をめぐる捕虜の動き～太平洋戦争開戦時、日本占領地の捕虜収容所」
- 10月28日 元イギリス兵捕虜の娘、Paula and Judith Medcalf 姉妹が来日、広島県尾道市の向島収容所(広島第4分所)跡を訪問。
- 11月13日 参議院外交防衛委員会にて、藤田幸久議員がP研会員福林徹提供の「麻生鉱業報告書」(米国国立公文書館所蔵)などを提示し、麻生鉱業の捕虜使役問題について麻生首相と中曽根外相に質問
- 11月29日 学習会。会代表・内海愛子報告「戦争裁判と捕虜問題」。

2009年

- 1月24日 学習会(於東京)。「麻生鉱業捕虜使役問題」について、会員田村佳子、西里扶甬子、福林徹、内海愛子が報告。
- 1月29日～2月8日 オーストラリアの作家Pattie Wright女史が来日、P研メンバーの協力で泰緬鉄道関係者取材。また山口県山陽小野田市の大浜収容所(広島第9分所)跡や本山収容所(広島第8分所)跡、広島の平和記念資料館、東京の靖国神社などを訪問。
- 2月6日 民主党・藤田幸久議員、衆議院第1会館にて「麻生鉱業捕虜使役問題」に関する報告会と記者会見。P研会員・福林徹と内海愛子が報告とコメント。
- 3月1日 会員・小宮まゆみ著『敵国人抑留～戦時下の外国民間人』、吉川弘文館より刊行。

- 3月6日 会員・沢田猛著『空襲に追われた被害者たちの戦後 東京と重慶 消えない過去』、岩波ブックレットより刊行。
- 3月28日 学習会。会員・小宮まゆみ報告「敵国人抑留～戦時下の外国民間人」、会員・長澤のり報告「南太平洋クルーズ捕虜交流記」
- 4月3日 会員・福林徹の寄稿記事「外務省が隠した麻生財閥の捕虜強制労働」が『週刊金曜日』に掲載。
- 4月28日 会員・長澤のりがオランダ人元捕虜・抑留者との和解に貢献した功績により、オランダのベアトリクス女王よりオレンジ・ナッソー賞を受賞。
- 5月7日 会員・福林徹の寄稿記事「史実検証：麻生鉱業の“消せない過去”～資料が裏付ける捕虜使役の実態」が月刊誌『世界』に掲載。
- 5月14日～21日 元アメリカ兵捕虜Raymond C. Heimbuch氏が来日、收容されていた三重県四日市市の石原産業工場内の捕虜收容所(名古屋第5分所)跡と富山市の日本曹達岩瀬製鋼所(現・太平洋ランダム)の捕虜收容所(名古屋第11分所)跡を再訪。東京では、民主党の捕虜問題小委員会との懇談会や、P研メンバーとの交流会など。
- 5月23日 学習会。白戸仁康氏、著書「北海道の捕虜收容所」について講演。
- 5月30日 藤崎駐米大使が、米国サンアントニオで開催されたADBC最後の総会にて、元捕虜の苦難に対し日本政府として公式に謝罪。
- 5月31日 江田五月参議院議長、英連邦墓地を訪問。
- 6月14日-21日 元オーストラリア兵捕虜のジョー・クームズ(Joe Coombs)氏とその子息2人、元イギリス兵捕虜の子息ジェームス・マクアナルティ(James MacAnalty)氏が「麻生鉱業元捕虜・家族と交流する会」(P研も協賛)の招きで来日、福岡県桂川町の福岡第26分所跡や、麻生鉱業吉隈炭鉱跡、飯塚市の麻生本社などを訪問。またクームズ氏は神戸の大阪第5派遣所跡や川崎重工神戸工場、マクアナルティ氏は長崎の福岡第2分所跡なども訪問。東京では、豪・蘭駐日大使や鳩山由紀夫民主党代表、江田五月参議院議長らとの面談、衆参議員たちとの交流会、記者会見、市民向け講演会など。
- 7月23日 憲政会館にてシンポジウム「ジュネーブ条約記念の集い」(P研も共催)。会代表・内海愛子がパネリストの1人に。
- 10月3日-4日 千葉県一宮町にてP研例会を開催。「千葉県中部地域における連合軍機墜落事件」というテーマで、ホックレー事件(一宮町、睦沢町、長南町)、ボナス事件(睦沢町)、エムリー事件(長柄町)の事件現場を見学。
- 11月21日 学習会。会代表・内海愛子「東京裁判と捕虜問題」
- 12月16日 「オランダ捕虜銘々票翻訳プロジェクト」に関し、オランダ国立公文書館員と打ち合わせ。

2010年

- 1月16日 学習会。会員・前川佳遠理「アジア太平洋戦争における日本軍の捕虜政策とアジア系捕虜の軍事動員～日本の東南アジア占領と兵補制度」
- 2月6日-17日 「第8回マレー半島ピースサイクルinシンガポール&マレーシア南部」にP研より7人が参加。チャンギ捕虜收容所跡、クランジ戦死者墓地、華僑虐殺事件跡地などを訪問。
- 3月20日 「オランダ捕虜銘々票翻訳プロジェクト」準備会。
- 4月3日 学習会。会員David Moreton、著書「泰緬鉄道からの生還；ある英国兵が命をかけて綴った捕虜日記」について講演。

- 4月10日～11日 元アメリカ兵捕虜軍医の息子Richard B. Williams氏夫妻が香川県善通寺市の善通寺収容所跡地と山口県山陽小野田市の本山収容所跡地を訪問。
- 5月30日 学習会。蘭ドキュメンタリー「オランダと日本の戦争の古傷」“Old Pain, in the Netherlands and Japan”. 鑑賞。名誉会員・大庭定男「私のインドネシア従軍体験とオランダとの関係」
- 7月12日～25日 米B29搭乗員の娘Susan Grantが来日、父が撃墜された新潟県横越村、拘留された東京憲兵隊本部跡、大森収容所跡、靖国神社、東京大空襲資料センター、広島、長崎などを訪問。
- 7月24日 学習会。会員Gregory Hadley「”竹槍の里”に墜ちたB29 a B-29 shot down to the field of spears～その後の話」。Susan Grant「“竹槍の里”に墜ちた父の記憶をたどって」
- 9月12日-19日 外務省招聘による第1回米元捕虜・家族の来日。Dr. Lester Tenney等7人＋家族。岡田外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。大森、川崎、四日市、飯塚、門司の収容所跡地、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の霊山観音などを訪問
- 9月25日 学習会。元日本軍人2人の講演。名誉会員・諸星達雄「泰緬鉄道とスマトラ横断鉄道での体験」、池上信雄「スマトラの民間人抑留所の所長としての体験」
- 10月17日 「オランダ捕虜銘々票翻訳プロジェクト」説明会(前川佳遠理)
- 10月11日-28日 豪捕虜の息子John Davis夫妻が来日、父が収容されていた神戸の大阪第5派遣所跡と横浜の英連邦戦死墓地を訪問。
- 11月2日 蘭捕虜の孫Michiel & Marco Coomen両氏が来日、祖父が収容されていた茨城県日立市の東京第7分所跡を訪問。
- 11月22日-12月1日 蘭捕虜の娘、Lore Ridings氏が来日、父が収容されていた山口県山陽小野田市の本山収容所跡と広島県尾道市の向島収容所跡などを訪問。
- 12月7日-11日 カナダ元捕虜・家族38人(カナダ香港退役軍人記念協会メンバー)が来日し、P研と交流会。

2011年

- 1月6日 オーストラリアのFiona & Hellen Simpson姉妹が来日、親族のAlexander Cattoが戦中抑留されていた警視庁抑留所跡(現・田園調布雙葉学園)と埼玉抑留所跡(現・浦和市聖フランシスコ修道院)を訪問。
- 1月15日 学習会。英ドキュメンタリー番組「Hell in the Pacific」(英国Ch4制作)鑑賞。(解説:西里扶雨子)
- 2月 会員・鈴木正徳訳『射殺されたガダルカナル日本兵捕虜～フェザーストーン収容所事件を追う(原題The Featherston Chronicles—A Legacy of War)』(マイク・ニコライディ著／新人物文庫)刊行
- 2月26日 シンポジウム「銘々票から見たオランダ兵捕虜の実態と日本軍の捕虜政策」(発表:前川佳遠理／笹本妙子／手塚尚／佐久間美羊／菅原完／三輪祐児／David Moreton／内海愛子)
- 3月2日-9日 日本政府の招聘で、元オーストラリア兵捕虜5名(Rowley Richards他)と付添5名、計10名＋家族3名が来日。前原外務大臣が一行に面会し、日本政府として初めて公式に謝罪。各人がいた収容所跡地(酒田、横浜鶴見、新潟、大阪、佐賀関など)や、京都霊山観音、カトリック奈良教会、横浜英連邦戦死者墓地などを訪問。6日には京都で証言集会、8日には東京で市民交流会を開催。
- 2月28日～3月12日 オーストラリア兵捕虜John Mayの娘Marian May氏が来日、父がいた善通寺収容所跡地を訪ねるとともに、招聘された元オーストラリア捕虜の旅にも同行、P研会員とも交流の時間を持つ。
- 4月 P研名誉会員・飛田時雄著『C級戦犯がスケッチした巣鴨プリズン』(草思社)刊行

- 4月23日 学習会。会員・鈴木正徳「訳書『射殺されたガダルカナル日本兵捕虜～フェザーストーン事件を追う』をめぐって」／会員・手塚尚「フェザーストーン収容所事件の遺骨をめぐって」
- 5月15日 学習会。名誉会員・大庭定男「私の戦争体験～ジャワ駐留とJSP時代」
- 5月24日 講演会。Mike Nicholodi氏(NZ歴史研究家)「自著『射殺されたガダルカナル日本兵捕虜～フェザーストーン事件を追う』について」
- 7月23日 学習会。会員・坂口春海「ニューギニアのボマナBomana日本人戦争墓地／京都霊山観音の連合軍捕虜の死亡記録」
- 8月15日 P研がオランダ国立公文書館から翻訳委託された「オランダ蘭印軍捕虜死亡者 銘々票 翻訳データベース」が同館ウェブサイトで公開。
<http://www.gahetna.nl/collectie/index/nt00425>
- 9月17日-18日 四国フィールドワーク。第1次大戦の板東収容所跡(徳島県鳴門市)、第2次大戦の善通寺収容所跡(香川県善通寺市)を巡る。
- 10月16日-23日 外務省招聘による第2回米元捕虜・家族の来日。Robert Vogler他7人＋家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。大森、高岡、大牟田の収容所跡地、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の霊山観音や立命館大学国際平和ミュージアムなどを訪問。
- 11月27日-12月5日 外務省招聘による第2回豪元捕虜・家族の来日。元捕虜Arthur Gambleや元民間抑留者Lorna Johnston他5人＋家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京と奈良にて市民交流会。横浜、埼玉、兵庫などの抑留所や収容所跡地、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の霊山観音、奈良の登美が丘教会などを訪問。
- 12月8日 カナダより元捕虜3人(Mr. Gerry Gerald他)と退役軍人省大臣等が来日、外務省の加藤敏幸政務官が公式謝罪。

2012年

- 3月25日-29日 台湾フィールドワーク。第2次大戦中台湾内にあった捕虜収容所跡数カ所を巡り、当地で調査活動をするカナダ人リサーチャー・Michael Hurst氏、台湾研究院の研究者・鐘淑敏さん、台湾第4分所の元監視員・侯連対さんと交流。
- 4月20日～27日 ニュージーランド捕虜息子Kevin Menzies氏が来日、父が収容された香川県の善通寺収容所跡や横浜の根岸競馬場跡の他、鎌倉の大船収容所跡、横浜の英連邦戦死者墓地などを訪問。
- 4月28日 学習会。有光健(戦後補償ネットワーク代表)「戦後補償・現状と今後の展望」、会員・荒川美智代「旧日本軍遺棄毒ガス裁判の近況」
- 6月10日 学習会。「台湾フィールドワーク報告会」
- 7月21日 講演会。早乙女勝元(作家)「ハロランの東京大空襲」
- 7月22日 学習会。ヴェニス大学教授 Guido Samarani氏「イタリア人捕虜をめぐって」
- 10月3日-8日 外務省招聘による第3回豪元捕虜・家族の来日。元捕虜Willian Schmittや元民間人抑留者Elsa Hatfield等4人＋家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。横浜の英連邦戦死者墓地や京都の霊山観音を訪問。また広島では小学生と、岡山では大学生と交流会。
- 10月13日-21日 外務省招聘による第3回米元捕虜・家族の来日。Douglas Northam等7人＋家族。玄葉外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。大森、横須賀、新潟、美祢の収容所跡地や、横浜の英連邦戦死者墓地、京都の霊山観音、立命館大学国際平和ミュージアムなどを訪問。
- 10月23日 学習会。「満州にあった連合軍捕虜収容所」講師：瀋陽大学奉天連合軍捕虜収容所研究所所長・楊竟(ヤン・ジン)／遼源市新聞文化局副局長于杰(ユー・ジエ)

2013年

- 2月14-21日 「マレー半島ピースサイクル」主催「泰緬鉄道トレッキング」にP研より5人参加

- 3月10日 学習会。宇田川幸大(一橋大学大学院生)「東京裁判と捕虜問題」／鍾淑敏(台湾中央研究院研究員「台湾史研究における捕虜問題」)
- 3月23日 「共同研究 捕虜」第1回打合せ
- 4月13-14日 関西フィールドワーク(大阪・神戸・京都の収容所跡地や捕虜関連施設)
- 4月15日 広島第4分所跡(尾道市向島)に、2002年に設置されたイギリス人死亡者の慰霊碑がリニューアルされ、同時に、アメリカ人死亡者の慰霊碑も新たに併設された。
- 5月9日～16日? 豪捕虜の息子John Davis 夫妻が来日、父のいた神戸の収容所跡地など訪問。
- 6月1日 講演会。森重昭「広島で被爆死したアメリカ兵捕虜」
- 6月23日 「共同研究 捕虜」第2回打合せ
- 7月13日 講演会。塚崎昌之(近現代史研究家)「日清戦争清国兵俘虜と『大日本帝国臣民』の形成」
- 8月10日～16日? アイルランドのTVクルーが、長崎の福岡第14分所にいたアイルランド人捕虜医師Aidan MacCurthyに関する番組取材のために来日。P研メンバーが協力。
- 9月15日 「共同研究 捕虜」第3回。会員・手塚尚「ドゥーリットル空襲と捕虜」
- 9月30日-10月7日 外務省招聘による第4回豪元捕虜・家族の来日。Charles Edwards等4人+家族。岸田外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。横浜の英連邦戦死者墓地、山陽小野田の収容所跡地、京都の霊山観音、奈良、広島などを訪問。広島では小学生と交流。
- 10月13日-21日 外務省招聘による第4回米元捕虜・家族の来日。Robert Heer等7人+家族。岸田外務大臣が公式謝罪。東京にて市民交流会。函館、小坂、尾道、善通寺の収容所跡地、京都の霊山観音、横浜の英連邦戦死者墓地などを訪問。
- 11月24日 「共同研究 捕虜」第4回。奥田豊己(国鉄元機関士)「国鉄OBから見た泰緬鉄道」

2014年

- 1月26日 「共同研究 捕虜」第5回。会員・内海愛子「東京裁判と捕虜問題」
- 2月16日 学習会。会員・前川佳遠理「オランダ泰緬鉄道シンポジウム報告」
- 4月5日 「共同研究 捕虜」第6回。会員・笹本妙子「インド人捕虜をめぐる」
- 4月18日-21日 長崎フィールドワーク。福岡第2分所、第14分所、第18分所跡見学+オランダ人被爆捕虜Willy Buchel van Steenbergen歓迎行事+映画「美しいひと」上映会+第2分所追悼碑建立委員会設立総会
- 6月28日 学習会。会員・紺野滋「福島抑留所と遺跡保存の問題 / 原発事故後の状況」
- 7月12日 「共同研究 捕虜」第7回。「メディアは捕虜をどう報じたか」
- 9月5日 電気化学工業青海工場(新潟県糸魚川市)にて東京第13分所慰霊碑除幕式。P研より6人参加。
- 9月14日 学習会。Terry Smyth氏(イギリス人捕虜の息子)「捕虜の子供たちの問題」
- 9月28日 学習会。杉田弘也(神奈川大学教授)「オーストラリア社会における捕虜問題」
- 10月12日-20日 外務省招聘による第5回米元捕虜・家族の来日。William Sanchez他7人+家族。中山泰秀外務副大臣が公式謝罪。日立、足尾、大森、川崎、大阪の収容所跡地、横浜の英連邦墓地、京都の霊山観音や立命館大学国際平和ミュージアム等を訪問、14日、東京にて市民交流会。

- 10月20日-27日 外務省招聘による第4回豪元捕虜・家族の来日。Russell Ewin等4人＋家族。岸田外務大臣が公式謝罪。22日、東京にて市民交流会。同日夜、Ewin氏に同行したRichard Braithwait教授の講演「サンダカン死の行進を生き延びた父の話」。直江津の収容所跡地や広島を訪問。広島では小学生と交流。
- 11月16日 「共同研究 捕虜」第8回。会員・高田ミネ「朝日新聞に見る捕虜報道」/ 会員・笹本妙子「写真週報に見る捕虜報道」

2015年

- 1月18日 学習会。会員・西里扶甬子「奉天捕虜収容所博物館に関する報告&映像上映」
- 2月8日 学習会。映画上映「子供たちの涙～日本人の父を探し求めて」(制作:砂田有紀)。会員・前川佳遠理「日本人の父を持つオランダ人の問題」
- 3月14日 「共同研究 捕虜」第9回。会員・小宮まゆみ「ジャワ新聞に見る捕虜報道」&「ジャワに海軍軍属として派遣された日本女性の体験」
- 4月4日～9日? 東京空襲中に撃墜されて捕虜になったB29搭乗員の娘Caren Gaston氏、息子William Johnston氏が来日、墜落跡地等を訪問。NHKが取材。
- 4月26日 学習会。会員・村田則子&渡辺洋介「“サンダカン死の行進”跡地訪問報告会」
- 5月23-24日 新潟フィールドワーク。新潟市内2カ所、阿賀町内1カ所の収容所跡地と関連施設を訪問。
- 6月25日～7月5日 オーストラリア捕虜の息子Robert Barmes夫妻が来日、長崎市の福岡第14分所と福岡県嘉麻市の福岡第5分所の跡地や横浜の英連邦墓地を訪問。
- 7月24日 横浜の英連邦戦死者墓地に、初めて案内板が設置され、除幕式。
- 7月28日～8月8日? イギリス人捕虜の息子Toby Norways氏が来日、父がシンガポールで親切にしてもらった日本人監視員・山中亀男氏の遺族(茨城県)を訪問。NHKが取材。
- 8月28日～9月7日? オランダ人捕虜の娘Hanna Wassenaar氏が来日、岐阜県の神岡収容所跡、横浜の英連邦墓地を訪問。
- 9月13日 長崎市郊外の福岡第2分所跡(現・香焼中学校)に、ここで苦難の日々を送ったすべての捕虜犠牲者のための記念碑が建立。また、終戦直後にこの収容所に救援物資を投下するため飛来し、墜落死したB29搭乗員のための碑も建立。除幕式には蘭・英・米から元捕虜や遺族など約30人の他、各国大使館や外務省、長崎県、長崎市の代表など、計100人以上が参加。P研は建立に向けての様々な活動、B29墜落地点の確認などに関わり、除幕式には11人が参加。
- 9月29日～10月2日 オーストラリアのシドニー大学にて、シンポジウム「傷痕と癒し:市民社会と太平洋地域における戦後和解(Wounds, Scars, and Healing: Civil Society and Postwar Pacific Basin Reconciliation)」開催。コーディネーターは在豪P研会員・クレアモント康子。P研より内海愛子、田村佳子、西里扶甬子、渡辺洋介が参加し、講演や活動発表を行う。
- 10月10日～18日 外務省招聘による第6回米元捕虜・家族の来日。Arthur Gruenberg他9人＋家族。武藤外務副大臣が公式謝罪。14日、東京にて市民交流会。横浜、川崎、神岡、大阪、敦賀の収容所跡地や横浜の英連邦戦死者墓地、京都の霊山観音などを訪問。
- 11月9日～16日 外務省招聘による第6回豪元捕虜・家族の来日。John Gilmore他3人＋家族。木原外務副大臣が公式謝罪。12日、東京にて市民交流会。神戸、山陽小野田の収容所跡地や横浜の英連邦戦死者墓地、京都の霊山観音などを訪問。
- 12月5日～14日 外務省招聘による第7回米元捕虜・家族の来日。Charles Brown他5人(全員墜落飛行士)＋家族。岸田外務大臣が公式謝罪。7日、明治学院大学で行われた交流会にP研会員参加。東京憲兵隊跡地、大森と大船の収容所跡地、東京大空襲戦災資料センター、群馬、埼玉、千葉、茨城、福岡の墜落地を訪問。

12月8日～12日 カナダの捕虜家族のグループ17人が来日。10日、英連邦戦死者墓地訪問後、東京にてP研主催の交流会。

2016年

- 1月30日 P研学習会「慰安婦問題について」講師：池田恵理子(女たちの戦争と平和資料館=WAM)館長
- 2月7日～15日 オーストラリア元捕虜の息子Tim Flangan夫妻とFrank George夫妻が来日、父たちがいた山口県山陽小野田市の広島第9分所(大浜収容所)跡や横浜の英連邦墓地を訪問。
- 2月29日 オランダ元捕虜Willy Buchel van Steenbergenと日本政府との和解が成立し、同氏に慰謝料110万円が支払われる。(P研会員が裁判支援)(Buchel氏は慰謝料の大半をP研を含めた平和活動グループに寄付)
- 2月末 長崎の福岡第2分所跡記念碑除幕式の記録集、P研より刊行。
- 4月3日～15日 オランダ人研究者Dr. Ernestine Kohne-Hogenが来日、岐阜県飛騨市の名古屋第1分所(神岡収容所)跡や横浜の英連邦墓地を訪問、P研会員と交流。
- 4月30日 学習会「捕虜法制について」(「軍事問題入門講座」と共催)。講師：福好昌治(軍事ジャーナリスト)
- 5月末 長崎の福岡第2分所跡記念碑除幕式の記録集・英語版、P研より刊行
- 5月末 アメリカの「全米バターン・コレヒドール防衛兵記念協会」(American Defenders of Bataan and Corregidor Memorial Society=ADBC・MS)よりP研に助成金。
- 5月31日～6月9日 会員・小宮まゆみ、田村佳子、西里扶甬子、笹本妙子がオランダを訪問。3日、アムステルダムのNIOD(戦争と虐殺資料館)のシンポジウムにてそれぞれ研究発表。4日、ユトレヒトで行われた「日蘭イ対話の会」で笹本が活動報告。
- 6月18日 映画上映会「Paper Lanterns」(広島で被爆死した米捕虜飛行士12人の調査をした森重昭氏の活動を追ったドキュメンタリー。監督 Barry Frechette)
- 7月末 新潟県上越市直江津の東京第4分所で死亡したオーストラリア捕虜Alexander Kerrの息子Bill Kerr夫妻が来日、横浜の英連邦墓地や上越市を訪問。
- 9月3日 午前：「捕虜収容所・民間人抑留所資料集(仮)」第1回編集会議
午後：学習会。プロパガンダ映画上映「Calling Australia」「Nippon Present」「汝の敵日本を知れ」など。ナビゲーター：内海愛子
- 9月10日 長崎市香焼の福岡俘虜収容所第2分所跡にて慰霊祭。P研会員(西里、宮本)参加。
- 10月1日 「捕虜収容所・民間人抑留所資料集(仮)」勉強会
- 10月23日 学習会「ジョン・ダワー『容赦なき戦争』を読む」ナビゲーター：内海愛子、杉田弘也、佐久間美羊
- 11月10日～17日 新潟県上越市直江津の東京第4分所で死亡したオーストラリア捕虜Robert Farleyの異母妹Wendy Kennedyの家族4人が来日、横浜の英連邦墓地や上越市を訪問。
- 11月16日 駐日オランダ大使館にて「日蘭イ対話の会インジャパン」(主催：日蘭イ対話の会)。講演：内海愛子。P研会員参加。その後、来日中の蘭元民間人抑留者と交流。
- 11月16日～29日 オランダ元捕虜の娘Lody Pieters姉妹、息子Ed Ewalts夫妻が来日、父が収容されていた大阪府多奈川の福岡第4分所跡、福岡県嘉麻市の福岡第8分所跡、飯塚市の福岡第7分所跡などを訪問。
- 12月4日～12日 外務省招聘によりアメリカ元捕虜の家族が来日、Kristin Dahlstrom 他9人。5日、英連邦墓地と川崎の収容所跡訪問。6日、外務省、駐日米国大使館訪問。8日、東京にて市民交流会。9日、敦賀、大阪、北九州市の収容所跡地訪問。10日京都霊山観音訪問。